

阿南・那賀・美波 定住自立圏共生ビジョン懇談会 第2回（議事要旨）

【日 時】

平成23年7月27日 午後1時30分～午後3時30分

【場 所】

阿南市役所 本庁舎3階 委員会室

【出席者】

出席委員：近藤光男委員（会長）、湯城豊勝委員（副会長）、岩瀬公委員、上杉豊久委員、江本友昭委員、尾田信義委員、大石満喜子委員、大澤夫左二委員、片山悦子委員、川人建介委員、児玉一郎委員、酒井勝利委員、澤田誠三委員、三宮建治委員、照原廣幸委員、荒井義之委員、竇木正美委員、山口貴司委員、吉岡正俊委員、吉田道明委員、渡辺純子委員（21名）

欠席委員：秋本喜久雄委員、川尻竹藏委員、久米良久委員、中川正委員、（4名）

オブザーバー：岡川雅裕（那賀町企画情報課長）、磯野晴幸（美波町総務企画課長）

事務局：尾山勝敏（阿南市企画部長）、美馬隆司、鈴江省吾、吉岡泰香、幸泉賢一郎、三河恭普（以上阿南市企画政策課）、草野裕作（美波町総務企画課）、大西塁（那賀町企画情報課）

説明者：担当者部会の各部会長

【次 第】

1 開 会

2 会長あいさつ

3 委員紹介（変更委員）

4 議 事

(1)報告事項

担当者部会の取組等について

(2)協議事項

定住自立圏共生ビジョン（素案）について

① 第1章～第3章 ・将来像、課題と対応策

② 第4章 ・具体的な取組事業

(3)今後のスケジュール

5 その他

次回の開催日程について

【議事要旨】

1. 開会（事務局） 午後1時30分

2. 会長あいさつ

前回、事務局より定住自立圏の制度概要や推進体制、ビジョンの将来像などについて説明があり委員からも意見や要望があった。今日の第2回では、事前に資料もお送りしているが、担当者部会で検討された具体的な取組事業について忌憚のないご意見を賜りたい。そして、この阿南・那賀・美波定住自立圏が素晴らしい圏域になるように願っているのでもよろしくお願ひしたい。

3. 委員の紹介等(報告)

- ・ 徳島県厚生農業協同組合連合会経営管理委員会の役員改選で畠山正夫会長が退任したため、新たに会長となった荒井義之氏を畠山委員に代わって懇談会委員に委嘱する。
- ・ 中川正委員が徳島県消防協会会長となったため役職を変更する。
- ・ 本日、説明のため1市2町担当者部会の部会長が出席している。

4. 議事

会長が議長を務める。

(1)経過報告

事務局より、具体的な取組事業を作成した担当者部会の開催状況について説明する。
(委員から意見・質問はなし)

(2)協議事項

定住自立圏共生ビジョン（素案）について

①第1章～第3章について

事務局より、前回示した素案（第1次）の第1章（共生ビジョンの位置づけ）第2章（圏域の現況）第3章（圏域の将来像）について、修正及び追加した文章、グラフ等の内容や趣旨について要点を説明する。

(質疑・意見)

(委員)

- ・ 構成市町の地勢・沿革で阿南市の産物としてタケノコが記載されているが、県下ではコシヒカリ(米)の一番の産地でもあるので、そのことにも触れていただきたい。

(事務局)

- ・ コシヒカリについて追記したいと考える。

(委員)

- ・ 農家総数の推移を表すグラフで平成15年に農家数が増加しているが、全国的に自給率や農家数の低迷があるなかで何か特別な要因があるのか。

(事務局)

- ・ 再度、数字やグラフを精査して第3回で報告したい。

(委員)

- ・ 人材の育成・確保のところでボランティアなどの地域リーダーの育成とあるが、高齢者が多くなって市の中心に出てくるのが困難なことから各地域の公民館を中心に人材育成を図ってはどうか。中心市への通勤通学の状況を見ても、夜間保育とかのニーズもあるなかで、子どものことを考えても各地域の公民館が重要な役割を担うと考えるがどうか。

(事務局)

- ・ 公民館は生涯学習をはじめ地域の拠点であるが、ここでいう地域リーダー育成のための学習機会は公民館のみならず地域のいろいろな場面を想定している。今後、1市2町の公民館が果たしている役割を再度検証しながら、公民館をどう活用していくか検討してまいりたい。

(委員)

- ・ 「野球のまち」で還暦野球等の大会が盛んに行われているが、経済や観光の活性化に役立っているのか。

(委員)

- ・ 経済的にどうか？ということだが、今年は著しく貢献していると思う。ホテルなども阿南市だけでは不足して那賀町や美波町へもお願いしている状況であり、県外から来られた方は地域にお金を落とすとしてくれており大きな効果が出ている。

(委員)

- ・ 阿南市女性100人委員会では、「野球のまち」について観光ボランティアを養成するとか、地元産物を使って公民館でランチを提供するなどのアイデアが出ているが、公民館の活用を計画に入れてほしいと考える。

(事務局)

- ・ 「野球のまち」の取組のなかでの公民館等の活用も今後検討してまいりたい。

(会長)

- ・ 他に御意見、御質問ございませんか。それでは、前回、私のほうから皆さんに2つお伺いしていたこと、一つは「阿南・那賀・美波定住自立圏」という名称、もう一つは将

来像の「住む人、来る人の心をつなぐ、やすらぎと活力の光あふれるネットワーク」というキャッチフレーズですが、これについて御賛同を得られるかどうかお諮りしたい。

(委員)

- ・ すごく耳に聞きよいキャッチフレーズであるが「つなぐ」より「つむぐ」がいいのではないか。「つなぐ」は結ぶだけだが、「つむぐ」は新しいものも古いものも合わせてつくったりつないだりするという意味があり「つむぐ」という言葉に代えてはどうか？

(会長)

- ・ 皆さんいかがでしょうか。

(委員)

～賛同する声あり～

(会長)

- ・ それでは、キャッチフレーズについて「住む人、来る人の心をつむぐ、やすらぎと活力の光あふれるネットワーク」でよろしいか？

～一同異議なし～

(会長)

- ・ また、名称について「阿南・那賀・美波定住自立圏」でよろしいか？

～一同異議なし～

(会長)

- ・ それでは、名称とキャッチフレーズをそのように決定し、次に協議事項の第2の第4章について事務局に説明を願う。

②第4章について

事務局より、今回新たに示す第4章（具体的な取組事業）について、要点を説明。

(質疑・意見)

(会長)

- ・ ただいまの説明について、どの部分からでもよいので御意見、御質問があれば伺う。

(委員)

- ・ 医療支援事業についていろいろ考えていただきありがたいが、やはり一番の問題は医師確保である。事業の3番目に医師確保事業として3つほど具体的な内容をあげているが、これで救急医療等を確保するためのマンパワーを得るのは困難と考える。先般、徳島大学と阿南地域の医療について意見交換を行った際に、学長から医師確保等の支援に

ついて阿南共栄病院と中央病院の統合を期待する発言があった。この定住自立圏構想から少し飛躍するが、これからの地域医療、医師確保のためには自治体主導の統合の方向に踏み出すべきではないかと考えており、そういった観点から自治体と徳島大学が意見交換の場を設けることを提言したい。

(会長)

- ・ 今後の医療についての御提言でしたが、事務局どうでしょうか？

(担当部会長)

- ・ 地域の医療体制を今後も維持していくためには医師の確保対策がもっとも重要であると、市としても認識している。そうしたことから、委員も参加いただいている「地域医療のあり方」について協議を進めているところであり、今後、その「地域医療のあり方」のなかで議題としてさらに認識を深めて参りたい。そのなかで機能分担や徳大の先生が述べられたことについても検討を進めて参りたいと考える。

(委員)

- ・ 医療問題の解決には莫大な経費が必要であり、この定住自立圏でどれだけの支援が可能なのか危惧している。

(委員)

- ・ 定住自立圏の取組経過のところ、高齢者人口が約45%増加するとの記述があり、総務省も高齢者の人権に関して、消費者被害の増加や高齢者の自立等に対して人材活用が必要であるとの見解を示している。そういったなかで、この定住自立圏共生ビジョンで高齢者について具体的な計画が無いように思うが、もっと焦点を当てるべきではないか。

(事務局)

- ・ 今回の共生ビジョンについては、協定書に盛り込まれた事業について取り組むこととなっているが、現段階の協定では委員が述べられた高齢者については盛り込まれていない。ただ、今後、協定書の見直し等が生じた際には、高齢者対策についても十分検討していきたいと考える。

(委員)

- ・ 総務省のインターネットで定住自立圏を閲覧したら、4箇所ぐらい高齢者についての施策をビジョンに入れている事例もある。

(会長)

- ・ 高齢者対策については既にいろいろな施策が行われているが、定住自立圏で必要となった場合はまた見直しをしていくということで御理解いただきたい。

(委員)

- 定住自立圏ビジョンについては協定があつていろいろ決められたこともあると思うが、それぞれの地域や自治体で既に取り組んでいることも多く、地元の住民に阿南市との定住自立圏での魅力ある形があまり見えてこないという感がある。しかし、将来的には高齢化が進むなかで、医療については阿南の共栄病院・中央病院に頼り切っている事情もあり、道路網の整備も必要な計画であると感じるが、その他の面では、図書館の相互利用等もどうかと思うし、地域公共交通にしてもバス便の悪化や高齢化の進展のなかで阿南市と提携してどうしていくのか、今後、委員だけでなく住民に分かっていただけるように説明するためには具体的なものがもう少しほしいと考える。

このなかで良いと思うのは火葬場使用料の軽減で、前回、他の委員からも発言があつたが、那賀町では火葬場が無いため死亡者のほとんどが利用しており、非常に使用料が高いということで定住ビジョンの計画で早く安くしてほしいという意見が相当出ているので、この中身をもう少しきつめた形でやってほしい。

また、野球場ができてインディゴソックスや還暦の大会などいろいろやっているが、子どもの大会もやれば必ず親もやってくるのもっと経済的な効果も上がるのではと思う。さらに、せっかくの定住圏なので、那賀町デーとか美波町デーといった形の大会を、お金を集めてでもやって効果を高めていく方法も提案したい。

(会長)

- 只今の意見、総論としては、ビジョンをもう少し分かりやすく具体的に、住民に説明して分かるような形にしてほしいとの御発言だったと思う。そういった観点では、事務局には、今後、ビジョン計画を作ったら終わりではなく、できるだけ具体化して進めていくようお願いしたい。そして、いろんな問題が出てきたときにビジョンに反映していく、逆に必要ないというときにははずしていくというスタイルをつくるというPDCAサイクルを常に心がけてやっていただきたい。そのなかで、ただいまの御発言に対する問題も対応できるのではないかと思うのでよろしくお願いしたい。また、その他、個別にいろいろ頂きましたが、それは御意見として賜りたい。

(委員)

- 医療の件で、設備とかについては計画のとおりでいいと思うが、先ほどの委員の話によると、いろいろ手を尽くしても医者確保ができないということで、私はこれについて、自前で医者を養成できないのかということ以前から考えている。

例えば、那賀町・美波町で毎年一人について医者の受験料その他全部、町が支援して5年続けていけば5人の医者ができる。阿南市も市で1人養成する。2人できれば5年で10人の医者が育成でき、阿南や那賀・美波町の病院へ来てもらえる。他に頼っても医師が確保できないのであれば、全額、市や町が負担して育成し、卒業して一人前になれば地元へ帰ってもらう、このように自前で養成しなければ解決できないと私は考える。

もう一つ、観光について会議所でもいろいろ取り組んでいるが、最近では阿南市だけの観光ではなくて広域観光でなければ人は呼べないということで、数年前から県・国の施策が変わってきている。特に最近では県南という形で那賀・海部郡と阿南市が広域で観光

に取り組んでずいぶん効果も上がっている。定住自立圏でも1市2町で観光に取り組むことが重要で、一番効果があるのがパンフレットだと思う。阿南市だけのパンフレットでは、お客さんに阿南市以外に何がありますかという質問にサービスが行き届かない面があり、那賀町や美波町でも同じである。1市2町が全て網羅できるようなそういったパンフレットを共同でつくれば、経費も調査費用もかからないので、そういったパンフレットを作成してお互いに阿南市でも那賀町・美波町が分かるような広域的なPRを行っていくことが必要でないかと思うので検討をお願いしたい。

(会長)

- ・ 1つは医者確保、もう1つは観光の振興についての御提言を頂いたので、ぜひ今後のビジョンに活かしていただきたい。

他に御意見、御質問なければ、ここで委員の意見交換を終了したい。

本日の委員からの意見については事務局で検討のうえ、次回の会までに直せる所は修正していただきたい。また、委員で言い忘れたことがあれば次の会までに事務局まで申し出ていただきたい。このような方向で第3回につなげたいと思うが、よろしいか。

～一同異議なし～

それではそうさせていただくこととして協議事項を終わりたい。

次に、今後のスケジュールについて事務局より説明願いたい。

(3)今後のスケジュール

- ① 圏域住民等を対象としたパブリックコメントの実施について

(期間：平成23年7月29日～8月11日、市役所・役場等及び1市2町ホームページ)

- ② 第3回ビジョン懇談会の日程（平成23年8月17日、阿南市役所）

- ③ ビジョンの公表予定は9月初旬

- ④ ビジョン事業実施の考え方（PDCAサイクル）

事務局より、①～④の今後のスケジュールについて説明。

(会長)

- ・ それでは、ただいまの事務局からの説明があつたとおりで進めていくことにしたいがよろしいか。それでは、これで本日の私の役目を終えたい。

5. 閉会のあいさつ 午後3時25分

阿南市企画部 尾山企画部長

(終了)